17th 建築家のあかりコンペ 2026



伊地知 裕貴
Ijichi Yuki

ZERO HOURS
DESIGN STUDIO

プロフィール

2010 富山大学芸術文化学部デザイン情報コース卒
2010 ORGANデザイン室
2011 Studio Shirotani
2012 長谷川陶磁器工房
2013 株式会社創企堂
2015「ZERO HOURS DESIGN STUDIO」を立ち上げる。

https://0hoursdesignstudio.com

作品名：繰繰灯

繰る、あかり。
糸枠に糸を繰るように、照明から伸びるコードを繰る。
余分なコードを繰り寄せて繰る。
日々の暮らしの中では、コードを仕舞うことまで意識が及ばず、無造作に置かれていることも多い。
この照明は、コードを繰るという小さなふるまいを促す。
繰るたびにコードが光を遮り、隙間から光が漏れる。
その繰り具合によって、あかりの表情が変化する。
繰るふるまいを重ねることで、空間の佇まいが整っていく。
電源へ伸びるコードも、隠すものではなく、繰ることで灯りの一部となる。
仕舞うために繰る。整えるために繰る。光を変えるために繰る。
これは、決められた形に完成する照明ではない。
人の手で繰るふるまいの中で完成していく照明である。





稲葉 来美
Inaba Kurumi

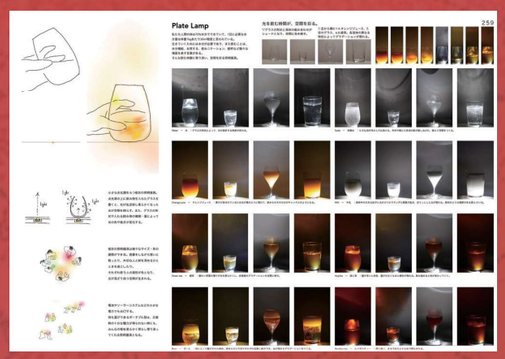
稲葉来美建築設計事務所

プロフィール

1994年
静岡県生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。
2018年
横浜国立大学大学院修了後、西沢立衛建築設計事務所入所。
2026年
稲葉来美建築設計事務所を設立。

作品名：Plate Lamp

私たち人間の体は70%水分でできていて、1日に必要な水分量は体重1kgあたり30ml程度と言われている。生きていくためには水分が必要であり、また飲むことは、水分補給、お茶する、飲みニケーション、献杯など様々な場面を表す言葉がある。
そんな飲む体験に寄り添い、空間を彩る照明器具。



Architectural Lighting Design Competition 2026

17th 建築家のあかりコンペ 2026

Architectural Lighting Design Competition 2026

入選者一覧

募集作品テーマ LED照明プロダクトコンペ
「ふるまいを促すあかり」

賞

最優秀賞	1点（副賞30万円）	優秀賞	1点（副賞15万円）
入　選	4点	佳作（選外）	5点

公開審査・表彰式

■ 開催日時 2026年10月30日(金)
16:30～19:30（開場16:00）

■ 開催場所 建築家会館1階ホール
東京都渋谷区神宮前2-3-16

審査委員長


©Kei Tanaka

中村 拓志
（NAP建築設計事務所）

審査委員



津川 恵理
（ALTEMY）



中村 晃子
（日建設計）



東海林 弘靖
（LIGHTDESIGN）



安東 克幸
（大光電機）

主 催　公益社団法人日本建築家協会 / 大光電機株式会社
後 援　一般社団法人日本建築学会 / 公益社団法人日本建築士会連合会 / 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
株式会社日刊建設通信新聞社 / 株式会社電材流通新聞社

17th 建築家のあかりコンペ 2026



ユン ヘソン
Yoon Hyesung
ユニオンテック株式会社

プロフィール

1999年、東京出身
ICSカレッジオブアーツ卒

2025年よりユニオンテック株式会社に所属。
オフィスを中心とした内装設計に従事。

作品名：in your hands　人の想いを包む、ふるまいの明かり。

人に伝えた想いは、いつまで残るだろう。
贈り物として形に残っていても、その想いを意識する機会は少なくなっていきます。

そこで、贈る人の想いをそばに感じ、もう一度心に留めるための「お守りの明かり」を提案します。

普段は光らず、手でそっと包み込むことでやさしく灯ります。「大切に包む」というふるまいそのものが一つの明かりとなり、贈ってくれた人を想い返すきっかけを作ります。





河上 プリヤ
Kawakami Puriya
名古屋モード学園

プロフィール

2005 愛知県名古屋市生まれ
2024 名古屋モード学園インテリア学科入学

作品名：HOTARU

蛍は、暗闇の中で小さな光を灯し、互いの存在を知らせます。そこで、蛍の「光が集まり、つながる姿」に着目した照明を考えました。人が帰宅すると、一匹の蛍がそっと灯り、その光を合図に、家の中の蛍たちが順番に光り始めます。玄関からリビングへと続く光が、帰る人をやさしく導き、最後には光が集まって空間を包み込みます。自分で照明をつけるのではなく、「光のほうから迎えに来てくれる」ことで、ひとりで帰る夜にも、誰かが待っていてくれるような安心と温かさを感じられる照明です。





北川 萌
Kitagawa Moe
ユニオンテック株式会社

プロフィール

名古屋外国語大学を卒業後、東京デザインプレックス研究所にて空間デザインを学ぶ。
2025年9月よりユニオンテック株式会社に入社し、オフィスデザインに従事。

作品名：care ― むすびあかり

SNSを通じて離れた人には簡単に文字で気持ちを伝えられる一方、家族やパートナーなど最も身近な人との関わりには難しさを感じることがあります。そんなとき、灯りをともすというささやかな行動で言葉にしにくい気持ちを伝えるツールをつくりたいと考えました。本作品は、家具やドアノブなど身近な場所に結ぶとやわらかな光が灯るリボン型の照明です。相手のために結び、灯しておく。その行為と残された光が「あなたを気にかけている」という思いを伝え、二人の距離を静かに結びます。





吾郷 直哉
Ago Naoya
AATISMO

プロフィール

島根県出雲市出身。
2026年、近畿大学大学院修士課程修了。
同年よりAATISMO勤務。

作品名：灯るまで。消えるまで。

かつて人は、火を起こし、薪をくべ、炎が育つのを待ち、最後には火を始末していた。あかりが灯るまでにも、消えるまでにも、人のふるまいと時間があった。しかし現代のあかりは、スイッチひとつで瞬時に灯り、瞬時に消え、人感センサーによってその操作さえ必要なくなりつつある。本提案は、あかりによって生まれるふるまいだけでなく、「灯るまで、消えるまで」に生まれるふるまいに着目する。少し先の明るさを想像してあかりを灯し、眠る時間を考えて消す準備をする。瞬時だったONとOFFの間に時間をつくり、あかりの変化に応答するふるまいを生み出す照明を提案する。



Architectural Lighting Design Competition 2026